

発達遅滞乳幼児の療育目標と効果の評価に関する研究

—発達遅滞乳幼児の発達評定(アセスメント)について—

東京学芸大学教育学部

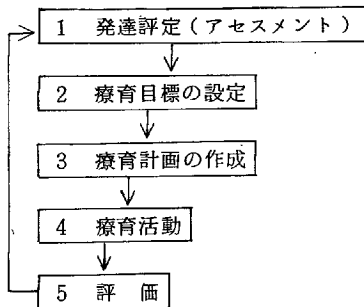
山口 薫

目 的

発達遅滞に対して乳幼児期の療育が極めて重要であることは早くから指摘されてきたが、最近、例えばアメリカ、ワシントン大学においてAlice H. Haydenが行った研究のように、零歳からダウン症児に療育を試みて顕著な成果を収めた画期的な研究などがいくつかみられるようになった。

わが国では、これまで学齢児の対策に追われて発達遅滞乳幼児への対応は著しく遅れており、今後乳幼児期の療育対策を早急に発展させることが急務である。

発達遅滞乳幼児の療育プログラムは次のように図示することができる。



すなわち、まず個々の発達遅滞児に対する発達評定(アセスメント)が行われ、それに基づいて具体的な療育目標が設定され、次いでそれを達成するための療育計画が作成され、実際の療育活動が行われる。最後には療育活動の成果を目標と照合して評価が行われるが、この評価は、次の療育目標を設定するための

アセスメントを行っていることになる。

われわれの研究は、このような一連の療育システムの中の、アセスメント、療育目標、効果の評価方法を開発することを目的とするものである。

研究の経過

この研究においては、第2、3年次において、零歳～5歳の発達遅滞乳幼児を母親に週1回東京学芸大学附属養護学校幼稚部教室に連れてこさせ、アセスメントに基づいて個々の子どもについての療育目標を設定し、一週間の訓練プログラムを母親に渡して、主として家庭において母親に子どもを訓練させた結果を一週間毎にチェックして効果の評価を行うという方法を予定しており、第1年次においては、そのための発達評定(アセスメント)の尺度を作成する作業を進めた。

研究の成果

内外のいくつかの資料を検討した結果、次の2つを主な参考資料として日本版の評定尺度を作成することとした。

1) ABACUS (Arizona Behavior Analysis Criterion Utilization Scale)

これは1977年から3か年間、アメリカ合衆国アリゾナ大学が中心となり、発達遅滞乳幼児に対して個別プログラムに基づく指導を実施した際に作成された評定尺度である。

2) Portage Project

同じくアメリカ合衆国で開発された、発達遅滞乳幼児を家庭において母親が訓練す

るためのプログラムで、580項目の目標行動が1項目1枚のカード式になっており、各項目について目標達成のための訓練手続がそれぞれ数項目記載されているところに

特徴がある。

ABACUSとPortage Projectの領域と項目数を比較すると次表のようになる。

ABACUS

item age	—	body management	self care	communication	pre-academic	socialization	total
0 - 8		47	52	34	58	23	214

Portage Project

item age	infant stimulation	motor	self help	language	cognitive	socialization	total
0 - 1	45	45	13	10	14	28	155
1 - 2		18	12	18	10	15	73
2 - 3		17	27	30	16	8	98
3 - 4		15	15	12	24	12	78
4 - 5		16	23	15	22	9	85
5 - 6		29	15	14	22	11	91
total	45	140	105	99	108	83	580

Portage Projectの項目数がABACUSの3倍近くであることとともに、Portage Projectには、零歳～1歳段階にinfant stimulationという特殊な領域が設けられている。

次に、ABACUSおよびPortageに基づいてわれわれが作成中の日本版試案の中から、領域別に、いくつかの項目をとりだして示すと次のようになる。

項目	材料・手続き	基礎	指示	備考
I 身体運動 A 粗大運動	(興味のあるおもちゃ) 子どもをおむけに寝かせ、おもちゃに興味をもたせる。おもちゃをとるために寝がえりをうたなければならない場所におもちゃを置き、指示する。	あおむけからうつおせになる。	ねがえりをうっておもちゃをとりなさい。	
1. あおむけからうつおせになる。				
2. うつおせからあおむけになる。	子どもをうつおせにねかせる以外は項目1と同じ。	うつおせからあおむけになる。	同上	
3. ささえられてすわる。	(まくら)子どもの背中に枕をあてたり、おしりをささえたりする。子どもを観察する。	首がすわり、すわっている。		

項目	材料・手続き	基礎	指示	備考
4. ささえなしですわる。	(ひじかけのない子ども用のいす) a) いすにすわらせ、指示する。 b) 床にすわらせ、指示する。	いすや床にささえなしですわる。	a) いすにすわって。 b) 床にすわって。	
5. 両手両ひざではう。	床にはわせ、子どもから4～5フィート離れる。指示する。 (1フィート=30.48cm)	教師のところまで両手両ひざではう。	はっておいで。	
6. ささえももらって立つ。	(テーブル、イス、又は大人の補助) 子どもをかかえあげ、テーブルか、いすのそばに立たせる。指示する。	ささえにつかまって立つ。	ここでたつてごらん。	
7. 小さいいすにすわる。	(小さいいす) 子どもを小さいいすのそばにおき、モデルを示し、指示する。	小さいいすにすわる。	いすにすわって。	
8. ひとりで立つ。	床に立たせ、指示する。	ささえなしで立つ。	立ってごらん。	
9. ささえももらって歩く。	子どもをテーブルのそばにおき、ささえとして手をさしだし、指示する。	ささえももらって、少くとも6歩あるく。	歩いてごらん。	
10. ひとりで歩く。	子どもから15～20フィート離れて立つ。指示する。 a) くつをはいて。 b) くつをはかないで。	ささえなしで、くつをはいたり、はかないで、教師まで歩く。	歩いておいで。 a) くつをはいて。 b) はかないで。	
11. こしをまげる。	モデルを示す。指示する。	腰をまげる(ひざにさわる)バランスを保ち、もとにもどす。	これをしなさい。	
12. ボールをころがす。	(8～12インチのゴムボール) 子どもと離れて床にすわる。モデルを示し、指示する。	教師の方へボールをころがす。	ボールをころがして。	

II 身辺処理 A 衣服の着脱*	*この部分の評価には、子ども自身の衣服を使用する。	*特にことわりがない場合には、補助なしで各項目を完成する。		
1. くつ下を脱ぐ。	(子どものくつ下) 子どもにくつ下を両方はかせておく。くつ下を指し、指示する。	両方のくつ下を、引っぱって脱ぐ。	「くつ下を脱ぎなさい」	
2. パンツ(ズボン)を脱ぐ。	(子どもの引っぱってはくパンツ* [ズボン]) 子どもにパンツ(ズボン)をはかせる。パンツ(ズボン)を指し、指示する。 ④ゴムヒモつきの子ども用パンツ(ズボン)か？(訳注)	パンツ(ズボン)を脱ぐ。	「パンツ(ズボン)を脱ぎなさい」	

項目	材料・手続き	基礎	指示	備考
3. 紐を緩めた あるいはバックルをはずしたくつを脱ぐ。	(子どものくつ) 子どものくつの紐を緩める、あるいはバックルをはずす。くつ(紐またはバックル)を指し、指示する。	くつを脱ぐ。	「くつを脱ぎなさい」	
4. ボタンのはずれてある上着やシャツを脱ぐ。	(子どもの上着またはボタンのあるシャツ) シャツや上着のボタンをはずす。シャツや上着のボタンを指し、指示する。	シャツや上着を脱ぐ。	「シャツ(上着)を脱ぎなさい」	
5. 頭からかぶって着るシャツボタンのはずれてあるドレスを脱ぐ。	(子どものドレスまたはTシャツ) ドレスのボタンをはずす。ドレスまたはシャツを指し、指示する。	シャツやドレスを頭から脱ぐ。	「シャツ(ドレス)を脱ぎなさい」	
6. ズボンをはく。	(子どものズボン) 子どもの近くのテーブルにズボンを置く。ズボンを指し、指示する。	ズボンをはく(ファスナーやジッパーをしなくてもよい)。	「ズボンをはきなさい」	
7. くつ下をはく。	(子どものくつ下) 子どもの近くのテーブルにくつ下を置く。くつ下を指し、指示する。	かかとの部分を合わせて、両方のくつ下をはく。	「くつ下をはきなさい」	

Ⅲ コミュニケーション技能				
A 基本的能力 (Prerequisites)				
注意				
1. 音に反応する。	(ベルまたは他の音の出るもの) 子どもをイスにすわらせる。子どもの視線から離れ、ベルやガラガラで音を出す。観察する。	警戒反応 (alerting response) を示す。およびあるいは、音の方向に目を動かす。		
2. 音声に反応する。	音声を出す以外は、同上。	同上		
*3. 名前に反応する。	子どもの名前を呼んで反応を見る以外は、同上。	警戒反応を示し、音源をみつけようとする。	「(子どもの名前を呼ぶ)」	
*4. アイ・コンタクトを保つ。	子どもをイスにすわらせる。子どもの目の高さで向い合ってすわる。指示する。	アイ・コンタクトを3秒かそれ以上保つ。	「～ちゃん先生を見なさい」	
5. 活動に注意する。	(パズルまたはおもちゃ) 子どもをイスにすわらせる。向い合ってすわり、パズルやおもちゃで先生が遊ぶ。指示する。	活動を5秒かそれ以上見る。	「見てごらん」	

項目	材料・手続き	基礎	指示	備考
物の不変性 教科の前段階、 思考技能1, 3, 4, 5を見よ。				
物に合った遊び 教科の前段階 思考技能2, 8 を見よ。				
模 倣 *6. 身ぶりを模倣する。	教師の前に子どもをすわらせる。各課題のモデルを示し、指示する。	3つのうち2つの動きを模倣する。	a)「こうしなさい。バイバイ」手を振る。 b)「こうしなさい。パッタ。パッタ」手をたたく。	

Ⅳ 教科の前段階 A 思考技能				
1. なくなったものをさがす。	(興味のある小さなおもちゃ)子どもをイスにすわらせ、子どもの見えるところにおもちゃをもち、子どものイスの下へ動かす。子どもを観察する。	見えなくなった場所を目で追ったり、手をのばしたりする。		
2. 物の探索	(同 上)子どもの側のテーブルにおもちゃを置き、観察する。	おもちゃに手をのばしたり、つかんだり、いじったりする。		
3. 落ちたものをさがしたり、つまみあげる。	(同 上)子どもの見えるところにおもちゃを持ち、興味をもたせ、落とす。観察する。	おもちゃをとる。		
*4. かくされた物を見つける。	(同上、ふたのついた箱3つ)子どもの見ているところで、1つの箱におもちゃをかくし、観察する。	1回で正しく見つける。		
5. 連続的にかくされた物を見つける。	(同 上)子どもの見ているところでおもちゃを手にかくし、1,3,2の順に手を置き2にかくす。手を見せてから指示する。	おもちゃを見つげるために、1, 3,2の順にさがす。	おもちゃをさがしなさい。	
6. 物と物との対応	(3対の物、スプーン、おもちゃの自動車、人形2つずつ)テーブルに各対から1つずつ置く。先生は残った物の1つを手を持ち指示する。	3つのものが正しく対応できる。	これと同じものをください。 a) スプーン b) 自動車 c) 人形	
7. さわって物を見つける。	(ミステリーボックスまたは紙の袋、ボール・ブロック・かぎ・おもちゃ	さわらだけで、要求された4つ	〇〇を見つげなさい。	

項目	材料・手続き	基礎	指示	備考
	の犬)物の名をいい、箱または袋に入れる。指示する。子どもが物を見つけた後、それを袋に入れる。	の物のうち3つを正しく見つける。	a) ボール b) ブロック c) かぎ d) 犬	
*8. 機能的におもちゃを使う。	(おもちゃの自動車、電話、ブロック6つ)おもちゃを1回に1つ子どもの前に置き、観察する。指示する。	3つのおもちゃから2つを機能的に使う。 a) 自動車を押したりひっぱったりする。	〇〇で遊びなさい。 a) 自動車 b) 電話 c) ブロック	

V 社会化				
1. 視線の向いている方で動いている人を見る。	(見なれた人) 見なれた人に子どものそばを歩かせる。子どもを観察する。	人を見て、目あるいは目と頭で追う。		
2. 話しかける人の顔を見る。	子どもの視線の高さで、話しかける。子どもを観察する。	話しかけられている間、顔を見る。		
3. 場面に応じて、表情や発声を変える。	子どもを観察する。	場面に応じた感情表現をする。 例えば、親しい人に会って一微笑する;だき上げたり、一緒に遊んでいる時に一笑う;どすんと降すと一泣く。		
*4. 親から離れても泣かない。	(親) 子どもを親から離し、親を部屋から出す。	ちょっと泣いても、すぐおとなしくなる。		
5. 手を振ってバイバイをする。	モデルを示し、指示する。	手および、あるいは腕を振る。	「バイ バイ」	
*6. あいさつに答える。	指示する。	声で答える。	「ハーイ」(こんにちは)	
7. 「おいで、おいで」をすると、すり寄ってくる。	指示する。	すり寄ってくる。	「おいで、おいで」	
8. 自分から遊ぶ。	(興味のあるおもちゃ) 子どもを観察し、指示する。	大人の指導なしで、おもちゃでうまく遊ぶ。	「ほら、おもちゃだよ」	
9. 平行遊びをする。	(おもちゃで遊んでいる他の子ども、他に使えるおもちゃを準備する) 子どもを観察する。	必ずしも一緒に(協力して)しなくてもよいが、		

項目	材料・手続き	基準	指示	備考
		他の子どものそばで、おもちゃをうまく使って遊ぶ。		
10. カギにコートをかける。	(ロッカーのある所、子どもの手が届く高さのカギ;セーターまたはコート) カギを示し、指示する。	指示されて、コートをカギにかける。	「コートをかけなさい」	

年齢 0～1 哺乳瓶の方に手をのばす

身辺自立 3

1. 子どもに見えるように哺乳瓶を持つ。子どもに話しかけながら、それをゆっくりと口の方に動かす。
2. 子どもが哺乳瓶の方に手をのばさない場合、口に乳首を入れる前に瓶の上に手を置かせる。
3. この活動をあなたが子どもに哺乳瓶を与える度にする。
4. 子どもに哺乳瓶を与え、ちょっとの間、乳を飲ませる。それから哺乳瓶を彼の口から少し離し、そして彼がそれに手をのばすかどうかを見る。もし、彼が手をのばさないならば彼の手をとって哺乳瓶の方に導いてやる。

年齢 1～2 袖に腕を通し、ズボンに脚を通す

身辺自立 20

1. 子どもの手の近くに袖を持っている。袖に手を入れ、腕を通すように子どもを促す。必要ならば手を添えてやり、それから漸次、それをとって行く。援助なしで腕を通したら子どもをはめる。ズボンに足を通すことに関しても同様のやり方で続く。
2. 子どもが自分からやるのを待ち、常に袖を通してやるということをししない。
3. 子どもの腕が袖を通った時、それでイナイイナイバーをする。「お手々どこ？」という。手が出てきたらそれを握って「ここにあった！」という。
4. 最初はショートパンツ、ショーツリーブ、袖なしシャツを使う。子どもが上手になるに従って長袖シャツと長ズボンを使う。

年齢 2～3 少しこぼしてもスプーンとコップを使って自分で食事をする。

身辺自立 26

1. 食べることがあまり負担にならないようにするため、皿に少しの食べ物をのせ、コップに少量の飲み物を入れる。
2. 子どもが見てまねのできないように、他の家族の者と一緒に食べさせる。一人で食べている間、子どもを激励しうまくいったらほめる。
楽しくくつろいだ雰囲気にする。
3. もし、子どもがボールで簡単に一人で食べることができればそれを使わせ、そして後に皿を使うことに変える。
4. 子どもがあきてきたら親は食べるのをやめさせる必要があるであろう。
5. こぼしたり、メチャクチャにしても、子どもをしからないようにする。

年齢 3～4 注意されて鼻をかむ

身辺自立 60

1. 子どもに鼻のかみ方を教示する。どうやってかむか言いながらやってみせる。
2. 最初、鼻をかむべき時に手を取り、教示してあげて手伝う。
3. 子どもが鼻をかむ必要のある時、鼻をかみ、拭くように話す。彼がしたらほめる。
4. 子どもにポケットのついた衣服を着せる。クリネックまたはハンカチを彼に与え、ポケットに入れて持ち運ばせる。それを自分であるいは必要な時に注意されて用いたらほめる。

年齢 4～5 自分のふきんを取ってきてこぼしたものを拭きとる

身辺自立 68

1. こぼしたものを拭きとるためにぼろ切れやスポンジを一定の場所においておく。
2. 家族の他の者がこぼした物を拭きとるモデルになるように促す。

3. あやまってこぼしても罰しない。
4. こぼしたものを上手に拭きとったらほめる。

年齢 5～6 家から2ブロック内にある学校、遊び場、店に一人で歩いていく 身辺自立 99

- 1.a. 町名の標識をさしたり、道のわたり方を説明したりしながら、何回か子どもとその場所まで散歩に行く。
- b. あなたが道を知らないふりをして子どもに案内させる。
- c. 子どもが自分でそこに行けることを確かめるために1/2ブロック(5～6m)子どもの後について歩く。
- d. 道のりの半分を子どもと一緒に歩く。そのあと、自分で最後までやらせる。

年齢 0～1 視線を横切って動く人を見る 社会性 1

1. まわりが見えるように幼児用のイスにすわらせる。視線を横切って歩き、あなたの動きを追えるか注意してみる。
2. 子どもが、あなたの動きを見るのをはげますために、話しかけたり、わらったり、音のでものを使ったりする。
3. 子どものすぐそばで話しかけたり、ほほえんだりして注意をひく。だんだん視線を横切って歩くが、アイコンタクトは維持するようにする。子どもをほめ続ける。動きが追えるようになるにしたがって遠くで動く。

年齢 1～2 他の人に動作や物を示すためにひっぱっていく 社会性 38

1. おもちゃを見せた時に、おもちゃをほめる。
2. 子どもが興味をもつような物(新しいおもちゃ、金魚ばち、クッキー焼き、花)を見せる。次に、お父さんに見せてあげてとか、おねえさんに見においでと連れてくるようにいう。
3. 家のまわりを子どもと歩く。窓から見た事物を指ささせる。(例えば、新しい花、ごみトラック、外の犬や猫)

年齢 2～3 聞かれて選択する 社会性 50

1. 飲み物を2つ、おもちゃを2つ、食べ物も2つ手にとる。「牛乳、それともジュース」「自動車それともボート」などといって運ばせる。選ぶまで待つ。もし選ばない時は2つの物を片づけ、後でまた聞く。
2. 1つ1つの物の名をいいながら、子どもにこれまたは他のものをもらうことができるのをわからせるためにそれを差し出さない。
3. 子どもに着るための赤、または青のシャツ、読むための犬の本、またはおもちゃの本、ベットに持っていくためのおもちゃの熊、または人形のような物を選ぶ機会を与えるようにする。

年齢 3～4 いわれなくても見なれたおとなに挨拶する 社会性 54

1. 役割り遊びで、お父さんが家に帰ったことにして子どもにお父さんのまねをさせる。
2. 子どもが人に挨拶するような場面をつくり、あやつり人形や切りぬき人形を使ってやってみせる。
3. あなたが誰かに挨拶をしてみせ、子どもにまねさせる。
4. 子どものよく知っている人がたずねてくることがわかっている時に、子どもにそのことを知らせる。その人が戸口のところに来たなら、お客さんを迎えにいきながら、挨拶をする機会だと知らせてやる。

年齢 4～5 20～30分間家事をひとりでする 社会性 67

1. 子どもにしなければならない家事を選ばせる。選んだ仕事をしなければならぬことを説明する。タイマーを15分間にセットし、タイマーが終わるまで仕事をすれば好むものがあるという。仕事をしている間はめてやり、次はタイマーを20分間などにセットする。
2. 仕事が終わった時に進歩を点検し促す。
3. 子どもがわりあい長く興味をもってやる仕事は、おとなが芝生を刈る前に棒切れや小枝を集めたり拾ったりすること、刈りとった物を運ぶこと、そうじをすること、風呂を洗うこと、クッキーシートの上で粉をころがしてボールにすることである。もしあなたがそばで仕事をしていたら、

興味を持続するのはもっと容易になる。

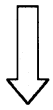
年齢 5～6 自分の目標をいい、それを実行する。

社会性 82

1. 子どもができそうで、やりたいプロジェクトを選ぶ。子どもと一緒にすわり課題をやり終えるのに必要なステップを口でいう。子どもが活動したら、「最初は何をするの、次は」などのように言葉で手がかりを与える。
2. 一度子どもが自分で目標を決めたら（注意されなくても毎晩歯をみがこうなどのように）ステッカー、トークン、チェックマークで自分の進歩を記録できる図を書かせる。親はステッカーやチェックマークがある数に達したら、子どもにほうびをやることで活動を監視できる。

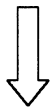
来年度の研究

今年度作成の試案を実際に発達遅滞乳幼児に適用し、その結果に基づいて試案に改訂を加え、それに関連して発達遅滞乳幼児の療育目標および教育効果の評価についての研究を行う。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

発達遅滞に対して乳幼児期の療育が極めて重要であることは早くから指摘されてきたが、最近、例えばアメリカ、ワシントン大学において AliceH.Hayden が行った研究のように、零歳からダウン症児に療育を試みて顕著な成果を収めた画期的な研究などがいくつかみられるようになった。

わが国では、これまで学齢児の対策に追われて発達遅滞乳幼児への対応は著しく遅れており、今後乳幼児期の療育対策を早急に発展させることが急務である。

発達遅滞乳幼児の療育プログラムは次のように図示することができる。

1 発達評価(アセスメント)

2 療育目標の設定

3 療育計画の作成

4 療育活動

5 評価

すなわち、まず個々の発達遅滞児に対する発達評価(アセスメント)が行われ、それに基づいて具体的な療育目標が設定され、次いでそれを達成するための療育計画が作成され実際の療育活動が行われる。最後には療育活動の成果を目標と照合して評価が行われるが、この評価は、次の療育目標を設定するためのアセスメントを行っていることになる。

われわれの研究は、このような一連の療育システムの中の、アセスメント、療育目標効果の評価方法を開発することを目的とするものである。